



K-STEAM講座「芸術・社会・文化講座」

7月30日(水)、K-STEAM講座「芸術・社会・文化講座(美術館へ本物を見に行こう)」を実施しました。昨年度から実施しており、今年度は桐蔭高校と合同で実施しました。本校からは高校生希望者8名が、本校芸術科教員とともに和歌山県立美術館を訪れ、学芸員の方から作品の解説やお話を聞きました。以下、生徒の感想です。「美術で歴史を振り返ることができると知った。今まで美術は私にはわからない世界だと思っていたが、自分の考えを持ち、作者の思いを考えることは楽しいと思った。」「風景と文化が日本なのに西洋風の塗り方と融合しているものが多くておもしろかった。現代的で写実的な塗り方だからこそ、今の和歌山にも通じる風景があることに気づいた。」「違う学校の人と交流する良い機会となった。」



★日本経済新聞(2025年7月26日)で本校SSH事業の紹介記事が掲載されました！

SSHの指定比率

全国順位	府県	指定比率
3	奈良	12.2%
8	兵庫	7.8
15	京都	5.8
16	大阪	5.6
19	滋賀	5.4
28	和歌山	4.3

(注) 高校におけるSSH指定校の割合
(出所) 科学技術振興機構

天王寺高、未来の科学人材育む

2025年3月、大阪府の4つの高校から生物学に興味を持つ数人の生徒たちが小笠原諸島に向かった。固有の動植物を体感する6日間の研修旅行だ。現地ガイド同伴でフィールドワークに取り組み、大学の研究室を訪ねたり、大学の研究室を訪問したりした。企画したのは天王寺高校だ。府内の他のSSH指定校などと協力した。

小笠原で固有生物学

関西のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校が独自の取り組みを進めている。大阪府立天王寺高校(大阪府)が固有種の宝庫といわれる小笠原諸島などへの研修旅行を企画。奈良女子大学付属中等教育学校(奈良市)がDMG森精機など企業や大学との連携授業を取り入れていく。

奈良はDMG森精機と授業

立川猛士校長は「科学に強い関心を持つ生徒が集まり、お互いの持っている情報を交換できるコミュニティを作ることができた」と狙いを語る。同校は科学に強い興味をもつ「突出人材」の育成に取り組む。科学に関するテーマを中心に、ディベート大会を授業で実施。大学の研究者などを招き、府下の高校生を集めた研究発表会「大阪サ

データで読む地域再生

同校では物理や化学といった理数系の部活動の部員数が10年間で6割増えた。科学オリンピックの参加者数も3・5倍になった。立川氏は「これからは研究者の原石が指導を得られる場を設けていきたい」と方針を語る。関西におけるSSHの指定比率を府県別にみると、奈良県が12・2%で最も高かった。同県内の高校49校(24年度5月時点)のうち25年度は6校が指定を受けている。同県教育委員会によると、もともと理数系の教育に力を入れていた高校が県内に多かったことなどが背景にある。

SSHになったことで「自然科学の分野に関心を持つ生徒が増えてきた。オープンキャンパスでも関連したカリキュラムへの関心が高く、当校を選ぶ際の基準のひとつになっている。」「(北尾尾副校長)と話す。同校では科学技術分野のイノベーション育成を目標に掲げており、実際に多彩な人材を輩出してきた。2月に「第10回高校生国際シンポジウム」で在籍生がグランプリを獲得するなど、20年間に約50の全国・世界規模の学会などで受賞した実績を持つ。生徒たちは「服の選び方に生かしたい」「ひとつの教科では気付きにくい疑問を探究できた」と話す。

同校は24年度で13本の横断型授業を行った。谷地祐介SSH推進部長は「生徒たちの主体性、科学的な思考力の伸びを実感している。今後積極的に実施していきたい」と話す。(田村広彦)

天王寺高校は固有の動植物が多い小笠原諸島でのフィールドワークを実施した

スマートフォンでQRコードを読み込むと、電子版「データで読む地域再生」が読める。QRコードをスキャンしよう。